

## ウクライナ避難民の早期支援を求める決議

2月24日、ロシア軍はウクライナに軍事侵攻した。ロシア軍の無差別攻撃によってウクライナ国民の貴い命が奪われ、戦火を逃れるために周辺諸国に避難する人々が増大している。

許し難いロシア軍の蛮行は、国際法、国際秩序を踏みにじるものであり、第2次世界大戦後、世界平和を脅かす最大の危機と言われている。

今、世界的規模でロシアのプーチン大統領に対する抗議や非難の声が上がるとともに、ウクライナ支援の輪が急速に広がっている。

突如、世界平和が脅かされ、かつてない規模の人道危機が発生している中、より一層の反戦平和の声を上げるときであり、同時に人道支援に取り組むことが急務となっている。

岸田文雄首相は3月2日、ウクライナ避難民を受け入れることを表明し、早急に実務の手続を進めるという。また、玉城デニー県知事も14日、避難民受入れを明らかにした。

全国各地の自治体においても、積極的にウクライナ避難民を受け入れる等、様々な支援の取組が相次いでいる。

「鉄の暴風」と言われた沖縄戦。県民は、筆舌に尽くし難い状況の中、お互い助け合い、あるいは、献身的な姿勢を発揮して戦火をくぐり抜けてきた。そして、今日の豊かな社会を築いてきたのである。私たちは先人たちの精神から学ばなければならない。

本市は、沖縄戦終えんの地であり、長年、全世界に向けて恒久平和を発信してきた。戦争で苦しむ人々を積極的に支援していくことは、世界平和を実現していくことにつながっていく。

ウクライナで起こっていることを「対岸の火事」とはせず、自らの問題として捉え、支援を必要としている人々の願いを受け止めるときである。

今こそ、本市の役割を再確認し、避難民の受入れ体制の構築を含めた調査や整備、支援策の検討を急がなくてはならない。

よって本市議会は、平和を希求しホスピタリティーあふれる「糸満の心」を世界に発信するとともにウクライナ避難民に対する早期支援の実現を求めるものである。

以上、決議する。

令和4年3月22日

糸 満 市 議 会